令 和 7 年 度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立加賀聖城高等学校

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準	集計結果 （）は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
1	１人１台端末のより効果的な活用に取り組み、生徒の能動的、発展的な学習を推進する。	①	授業や学校環境のユニバーサルデザイン化という観点を踏まえ、生徒の基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が Ａ ９５％以上 Ｂ ９０％以上 Ｃ ８５％以上 Ｄ ８５％未満	Ａ ９７．１％ （９２．６％）	ほとんどの教職員が、生徒一人ひとりの特性を理解し、丁寧に授業実践している。授業の「入口」を一斉にせず、複数用意し、すぐにわかる生徒やゆっくり考えたい生徒、言葉より図がわかる生徒など個々に応じた授業を展開している。そのため、授業内容や教員の指導に対しておおむね肯定的である。今後もさらに生徒の興味関心を高める工夫を行うとともに、基礎学力向上に取り組んでいく。
				授業のユニバーサルデザイン化により、生徒の学習環境が改善したと答えた教員の割合が Ａ ９０％以上 Ｂ ８０％以上 Ｃ ７０％以上 Ｄ ７０％未満	Ｂ ８８．９％ （１００％）	個々の生徒への適切な対応を考慮して、見通しを持って学びやすい学習環境を構築するために取り組んでいる。一人ひとりの生徒に応じた丁寧できめ細かな授業が実践できており、生徒の授業満足度は高い。これからも生徒にとって満足感のある授業を行い、学習意欲を高めていく。
				定通連携の公開授業も含め、他の授業を見学した回数の平均が Ａ ８回以上 Ｂ ６回以上 Ｃ ４回以上 Ｄ ４回未満	Ｂ ６回 （４回）	生徒の主体的学習を目的とした授業実践を学ぶために県内定時制高校の公開授業に参加している。本校でも年間２回の互見週間を実施し、Chromebookを利活用した互見授業が多くみられた。ICTの効果的利活用について資質向上を図ることができた。 また、他の先生方の授業を参観することで、思いつかなかった指導方法を学ぶことができ、自分にはない「新しい指導の引き出し」を増やしていく。
		②	１人１台端末の効果的な活用に向けて、ICT機器を利活用した工夫された授業を展開し、生徒の学習効果の向上を目指す。	Chromebookを効果的に利活用した授業を行なった教員の割合が Ａ ８０％以上 Ｂ ７０％以上 Ｃ ６０％以上 Ｄ ６０％未満	Ｂ ７８．１％ （７１．５％）	GIGA推進リーダーやICT支援員による校内研修会によって、Chromebookを利活用した学習活動が積極的に行われるようになった。アンケートやレポートにおいて、動画やアニメーションで動きや変化を可視化している。学習の質・量・広がりの面で大きな効果が期待できる。次年度も様々な場面において効果的な利活用ができるように取り組んでいきたい。

令 和 7 年 度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立加賀聖城高等学校

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準	判定基準	分析（成果と課題）及び改善等
２	総合的な探究の時間を中心とした地域学習の実践により、生徒の自己肯定感を高め、社会人として自ら課題を発見し、解決していく人間力の育成を図る。	①	日々の声掛け等の粘り強く地道な指導を続け、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	欠席・遅刻をしないように努めている生徒の割合が Ａ ９０％以上 Ｂ ８０％以上 Ｃ ７０％以上 Ｄ ７０％未満	Ｃ ７３．４％ （８１．３％）	授業での生徒への声掛けと１ヶ月ごとの皆勤者表彰を行うなど、欠席・遅刻をせず、時間を守ることの大切さを全教職員で指導している。授業を大切にすることや学校行事にきちんと参加することへの意識を高め、生徒の基本的生活習慣確立に向け、今後も指導していく。
				食事を通して身体的な健康維持ができていると回答した生徒の割合が Ａ ７０％以上 Ｂ ６０％以上 Ｃ ５０％以上 Ｄ ５０％未満	Ｂ ６０．０％ （５６．３％）	「ほっかほかタイム」の食育や毎日の補食を通して、身体の健康維持のために食事の大切さを伝えている。その取り組みが少しずつであるが浸透してきた。これからは保護者の協力も得ながら、きちんとした食事と健康の維持増進の意識を高めていきたい。
		②	いじめを含め問題を抱える生徒の早期発見と支援を行い、問題行動の未然防止を図る。	支援連絡会やいじめ対策委員会を通して、生徒の現状を理解し、支援ができていると評価する教員が Ａ ９５％以上 Ｂ ９０％以上 Ｃ ８５％以上 Ｄ ８５％未満	Ａ １００％ （１００％）	ほとんどの生徒・保護者が「先生が親切に相談に応じてくれる」と答えている。月１回以上の生徒支援連絡会を開催するなど、今後も個々の生徒理解に努め、教職員間で情報共有を密に行い、全ての生徒が安心安全な学校生活が送れるように取り組んでいく。
		③	総合的な探究の時間等で生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践する。	充実した取り組みができたと回答した生徒の割合が Ａ ８０％以上 Ｂ ７０％以上 Ｃ ６０％以上 Ｄ ６０％未満	Ａ ９０．０％ （９３．８％）	生徒の興味関心に応じたグループ（観光・もの作り・音楽・食文化）ごとに探究活動を行い、最終発表まで実施できた。今年度も、保護者・地域の方と連携した地域学習を目的として「ふるさと石川うぉーく加賀ＴＯ輪島」を実施した。非常に充実した取り組みとなった。
		④	地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動を実践する。	地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動に参加した生徒の割合が Ａ ６０％以上 Ｂ ５０％以上 Ｃ ４０％以上 Ｄ ４０％未満	Ｄ ２０．０％ （２５．０％）	他者との関わりやコミュニケーションをとることが得意でない生徒が多く、自主的なボランティア活動の参加については、ハードルが高い状況である。身近にある小さなボランティア活動から進めていけるような仕掛けを考えていきたい。

令 和 7 年 度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立加賀聖城高等学校

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準	判定基準	分析（成果と課題）及び改善等
3	生徒の能力や特性に応じたきめ細かな学習や、キャリア教育を通して、多様な生徒の進路実現を目指す。	①	生徒が自己の能力・適性を理解し、学習意欲の向上を図れるように、資格取得に向けた指導を行う。	検定・資格取得・コンクール出展に取り組んだ生徒の割合が Ａ ６０％以上 Ｂ ５０％以上 Ｃ ４０％以上 Ｄ ４０％未満	Ｄ ７．０％ （１７．６％）	全商簿記実務検定合格に向けて２名の生徒が取り組んでいる。これまでは加賀ふるさと検定に取り組んでいたが、対象となる授業が閉講したため受験者はいなかった。漢字検定の呼びかけをしたが希望者はいなかった。資格取得に向け取り組む生徒が年々減少しているが、検定受験を積極的に促し、意欲的に取り組ませていきたい。
		②	卒業までを見通した指導計画に基づき、生徒各人の能力・適性に応じた支援・指導を行う。	自己の進路に関する関心が高まったと回答した生徒の割合が Ａ ９０％以上 Ｂ ８０％以上 Ｃ ７０％以上 Ｄ ７０％未満	Ｄ ６６．７％ （６２．５％）	昨年度から4.2％上がった。進路セミナーで本校出身の社会人や本校元教諭よる講演で生徒がより身近に感じる方からのお話により進路に対する関心が高まったのではないかと考える。今後、定通企業ガイダンスだけでなく、市内企業見学の実施などを通して、一人ひとりの進路実現に向けて支援を綿密に行っていく。
		③	ハローワークや地域の企業等と連携して、生徒の就業の支援・指導を行う。	就業率が Ａ ６０％以上 Ｂ ５０％以上 Ｃ ４０％以上 Ｄ ４０％未満	Ａ ６０．０％ （６２．６％）	昨年度から2.6％下がった。今年度は１年生が１２名と多く、１年生にとって４年後の進路まではイメージできなかったのではないかと思われる。２月に全校生徒対象に職業適正検査を実施している。生徒一人ひとりの進路指導に活用していく。今後も定通企業ガイダンスだけでなく、市内企業見学や進路セミナー等を通して、一人ひとりの進路実現に向けて、授業や面談を通して支援していく。
4	校務分掌の適切な割り振りや業務の平準化を進め、教材研究や生徒理解の充実を図る。	①	職員間の横の連携を強め、積極的に協働し、生徒理解に取り組む時間を確保する。	個々の生徒について、より理解が深まったと感じる教員が Ａ ９５％以上 Ｂ ８５％以上 Ｃ ７５％以上 Ｄ ７５％未満	Ａ １００％ （８７．５％）	本校は校務の平準化を図るため、１人の教員が他の校務分掌を兼ねて担当している。そのため、複数の教員が協働し職員間の横の連携が十分に図られている。このことで、生徒と向き合う時間が確保できたことが生徒理解に繋がっている。
5	危機管理マニュアルの見直しを図り、大規模地震災害に備えた学校施設や設備等の点検・整備を行う。	①	施設・設備の整備を図り、防火・防災計画の周知徹底を図る。	防災・減災の意識を高め、取り組むことが出来たと回答した教員の割合が Ａ ９５％以上 Ｂ ８５％以上 Ｃ ７５％以上 Ｄ ７５％未満	Ｃ ８３．４％ （昨年度なし）	「ふるさと石川うぉーく加賀TO輪島」で地域の方から、能登半島地震や能登半島豪雨災害の状況を聞いたり、爪痕を直接見て肌で感じたことで防災・減災の意識を高め取り組むことができたと考える。これからも地震災害等について「想定外」は起こるという前提を持つ重要性や日頃からの備えによって命を守ること、また、情報の大切さや難しさを伝え、防災への意識を高め取り組んでいきたい。